授業科目　関節病理学

【担当教員名】	対象学年	3	対象学科	理学
田巻　弘之	開講時期	後期	必修選択	必修
	単位数	1	時間数	15

【カリキュラムポリシーとの関連性】

知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現
◎	◎	○		

【概要・一般目標：GIO】

リハビリテーション医療の中で、関節の病変を原因とした疾患や関節可動障害（関節拘縮）は多くの症例にみられる．本講義では、関節の病変、特に関節拘縮の病態、予防や治療について理解を深めることを目的とする。関節可動障害における様々な病態を理解するとともに、適切な治療方法について理解できるように関節の可動障害に焦点をあて講義を行う。

【学習目標・行動目標：SBO】

運動器障害にみられる合併症の一つに関節可動障害（関節拘縮）がある。関節可動障害は運動を阻害し、活動性を著しく妨げるためにリハビリテーション治療の成功の鍵を握るといっても過言ではない。一方、関節可動障害の頻度は高く、予防の難しさも示唆されている。関節可動障害の基礎となる機能解剖、運動学などを理解した上で、関節の病変について知識を深める。関節可動障害に対する適切なリハビリテーションアプローチが行えるよう基礎医学の知識を深め、適切な思考･判断を通してリハビリテーションアプローチが遂行できるように理解を深めることを目標とする。

回数	授業計画・学習の主題	SBO番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1	関節の病変と関節可動障害		講義
2	関節可動障害の病理と病態（1）		講義
3	関節可動障害の病理と病態（2）		講義
4	関節可動障害の治療		講義
5	廃用性筋萎縮の病態		講義
6	廃用性筋萎縮の治療		講義
7	痛覚過敏の病態と治療		講義
8	骨代謝の病理と治療		講義

【使用図書】	＜書名＞	＜著者名＞	＜発行所＞	＜発行年・価格 他＞
教科書 （必ず購入する書籍）				
参考書	関節可動域制限ー病態の理解と治療の考え方ー	沖田実 編	三輪書店	2008・2,940 円
その他の資料				

【評価方法】

出席や試験結果などを併せて総合的に評価する。

【履修上の留意点】